

就航を祝い、初便の客に花束を贈った



3月2日＝ 高知－鹿児島便が就航

高知空港に新しく、日本近距離航空の高知－鹿児島便が就航し三月二日、初便行事が関係者百人が集まり行われました。

鹿児島からの一番機は、午後二時五分到着。エプロンで、中内知事、小笠原市長らが、島津藩の陣羽織を羽織った観光関係者ら乗客を出迎え、花束、記念品を贈りました。

歓迎式ではまず、日本近距離航空の丸居幹一社長が「念願がかないうれしい。あこがれの高知に第

一便が到着できたのも、皆さんの協力のおかげです。今後、真心を込めた運営に心がけたい」とあいさつ。中内知事が「西郷隆盛、坂本龍馬と維新の偉業を遂げた二人を生んだ土地としてゆかりも深い。これからは、人事、経済の面

などいろいろな交流をお願いしたい」と祝辞。
続いて、鹿児島への第一便のテープカットが行われた後、新婚旅行に向かうカップルなどに花束が贈られ、就航を祝いました。

20人が実社会へ

〇〇就職生を励ます会〇〇

この春、実社会へ巣立つ「就職生を励ます会」が三月四日、中学生十四人、校長先生、担任の先生などが集まり市役所大会議室で開かれました。

今年、実社会へ出る中学生は市内四中学校から二十人（うち女子七人）で、県外へ就職する人は四人となっています。

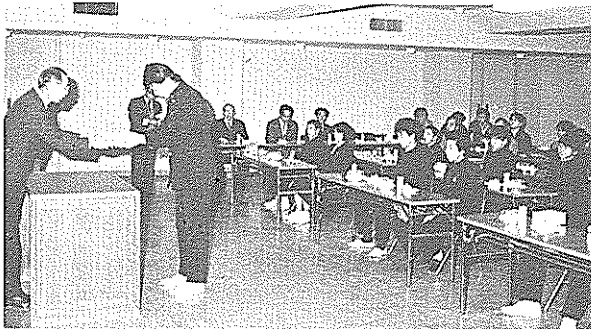
会ではまず、市進路指導研究協議会長の耕崎稔香長中校長が「大人の仲間入りをする皆さん、根性と忍耐力を持って頑張ってください」と激励。小笠原市長が「自分が決めた進路に向かって努力し、自

信を持って社会生活を送ってほしい」と、田内稔治教育副委員長が「上司、同僚から愛される人になってください」と、それぞれが言葉を贈りました。

そして鈴江教育長から、一人一人に記念品が手渡された後、蔦ヶ池中の上村智影さんが「社会人として責任を持って生活をしていきます」と、決意を述べました。

学校と違い、実社会ではつらいことも多くありますが、若い力で一つ一つ乗り越えていってほしいと思います。

実社会へ巣立つ中学生を激励した



もみ跡土器に興味深く

岸本小が「史跡めぐり」に…



興味深く出土品を見る子供たち

香我美町岸本小の六年生十二人が三月八日、「史跡めぐり」に訪れました。

これは、六年生の歴史の勉強に毎年行われているものですが、南国市を訪れたのは初めて。

園分寺、土佐国衙跡、比江麿寺跡、小蓮古墳と見学。そして、市立図書館二階にある、田村遺跡の出土品などをいっぱい集めた資料

室を訪問。

県教委文化振興課の出原恵三三事が、出土した石包丁、石斧、たき石など使い方を詳しく説明し、子供たちは興味深くメモを取りながら、昔の人々の生活を勉強しました。特に、稲のもみ跡が残る土器片を見て「うーん、ほんとだ」と目を輝かせていました。